

稲敷市工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

旧桜川村は茨城県南部で霞ヶ浦に面した位置にあり、「稲敷穀倉地帯」の農業村としてきたが著しい農業の変貌により、村としても農業も含めた産業の再構築が必要となった。

そのため、農業分化の受皿として企業誘致を推進するため工業団地を計画した。

○事業の経緯

平成2年から(財)茨城県開発公社より筑波東部工業団地が造成され平成4年4月より桜川村工業用水道事業(計画給水能力870m³/日)として一部給水を開始した。

本事業は茨城県が実施する県南広域工業用水道が給水されるまでの暫定事業であり、県南広域工業用水道事業が給水を開始した時点で本事業は廃止になる予定であったが、現在県南広域工業用水道事業において平成11年度以降の施設設備については、投資に見合った水需要が見込めない等の理由から、一時事業を中止している。

平成17年3月には町村合併により、稲敷市工業用水道事業に事業名を変更した。

○ユーザーの概要

(平成18年3月現在)

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
金属	2	75
電子	1	200
車両部品	1	10
分析機器	1	30
鋼鉄	1	15
その他	1	10
合計	7	340

○工業用水道施設の概要

本事業の水源は、地下水を利用し深井戸2ヶ所より水中ポンプ(1号井=0.19m³/min・2号井=0.42m³/min)で取水し、良質な水質を保っていることから、浄水過程を通さず原水のまま導水管(φ100mm延長約442m)により配水場(配水地:有効容量80m³)へ送水している。配水場から水中ポンプ(0.61m³/min)2台(予備1台)及び圧力タンク(2.3m³)により配水管(φ200mm延長約496m, φ100mm延長約947m)にて配水している。

○給水区域図

筑波東部工業団地

